

1 大きいミカン。(童話風)

大きいミカンがありました。

それは、誰も想像できないくらい、本当に大きいミカンでした。

あるとき、隣のうちの ゆみちゃんが、そのミカンを手にとって言いました。

「わあ、このミカン、私じゃ一口で食べられないなあ、どうしよう？」

「そうだ！隣のうちのおじいちゃんにあげよう！！」

.....

「おじいちゃん！ミカン食べませんか??」

ゆみちゃんがおじいちゃんに尋ねると

「おうおう、大きいミカンだなあ～ なんだかゆみちゃんの赤ちゃんみたいだ！」

....

そういうとおじいちゃんは、まじまじとミカンを見ていました。

....

ゆみちゃんは、「赤ちゃん」と言われたことを心の奥でなんとな～く気にしていました。

・・・(赤ちゃんを食べるなんて 出来ないな.....)

そう思ったゆみちゃんは

「ごめん、おじいちゃん！また今度！」

と言って、持って帰ってきてしまいました。

ゆみちゃんは、大きいミカン「よしよ」ともう一回持ち上げてまじまじと眺めてみました。

確かに、おじいちゃんが言うように、ミカンに笑いかけると、

ミカンもまた 笑っているように見えました。

ゆみちゃんは なんだか嬉しくなって ミカンに話しかけました・

「ミカンちゃん、いや。。私の 赤ちゃん あなたは

大きくなったら何になりたいの??」

.....

ミカンちゃんは当然 答えません。

だから ゆみちゃんは 一生懸命想像してみました。

「おかしやさん、お花屋さん、ピアノの先生、学校の先生、」

すると ゆみちゃんは

「あ！！」っと大きい声を出しました。

「なんてことでしょう！！今のは全部私の夢だった～！！」

ゆみちゃんはなんだか くすぐったい気持になって、

ミカンちゃんを眺めながら、そつと言いました・・・。

「そうだなあ、私も ミカンちゃんみたいに 大きくなりたいな～」

.....

10分がすぎ 30分がすぎ、
ゆみちゃんはなんだかとっても気持ちがよくなって、寝てしまいました。
その姿を後ろで見ていたお母さんが
「あら、あそこに、ゆみちゃんとゆみちゃんの妹が寝てる..」
「ゆみちゃんにも はやく 妹ができますように.....」
と言いました。
おしまい。

② 車窓から～風

目を閉じると聞こえてくるのは、列車の蒸気音だけ。

目を閉じればそこは、私が生まれるずっと前にあった田園風景。

ぴん と伸ばせば私の背よりもありそうなライ麦達。

頬にそっと、冷たい風があたって
目が覚めて
ぼんやりしていた目の前の世界観がぱっと広がった。

ここは アイオワ州のマディソン郡。
映画マディソン郡の橋で有名です。